

脳細胞遺伝セミナー

(来聴歓迎・事前登録不要)

神経発達疾患における シナプス可塑性の意義

吉井 聡 先生

Assistant professor

Dept of Anatomy & Cell Biology and Pediatrics
University of Illinois at Chicago

日時 2016年3月22日火曜日 午後1時～2時
場所 金沢大学宝町キャンパス医学類B棟1階小会議室
<http://square.umin.ac.jp/top/map/b-small.pdf>
後援 金沢大学十全医学会

グルタミン酸受容体は脳の興奮性シナプスでの主要な受容体である。このグルタミン酸受容体の機能はPSD-95などの足場タンパクによって制御されている。PSD-95はシナプスにおいてNMDA型グルタミン酸受容体を成熟型に置換するが、このPSD-95の機能は活動依存性であり、脳由来神経栄養因子BDNFが受容体TrkBを活性化することによって生じる。これらのメカニズムが機能不全を起こすと、脳の様々な病的変化を引き起こすと考えられている。本セミナーでは特にBatten病と結節性硬化症という2つの神経発達疾患についてシナプスの機能異常を考察する。

問合せ 金沢大学医学系 脳細胞遺伝子学 河崎 洋志
076-265-2365, kawasaki-labo@umin.ac.jp